

5つの大学病院群をまとめ 全国に負けない総合力のある大学へ

名古屋市立大学（本部・瑞穂区）は昨年までに2,200床を超える全国最大規模の大学病院群を誕生させた。2学部も新設し、8学部7研究科の総合大学として着実に充実、発展を続けている。そのリーダーシップをとってきたのが郡健二郎理事長、その人。2014年から理事長・学長を務め、22年、理事長職専任となった。それらの成果を奢ることなく淡々と話す、郡理事長に名古屋市民のための医療、大学の未来について聞いた。（聞き手は塚本隆編集長）

——塚本編集長 理事長・学長に就任されてから今年で10年になります。大学運営の所感をお話してください。

郡理事長 長い間務め、“継続は力なり”と率直に思うことが半分、次世代の人材を育てる思いが4分の1です。残りの4分の1は偏った運営になっていないか、としばしば思いながら運営してきました。世界の政治家を見ても、長期政権ゆえに実現できたことと、弊害が目立つケースもあります。もとより大学理事長と比較はできませんが、長期在職の特長を生み出せるように努めています。

——成果で特に印象深いことは何でしょうか。

郡 成果と言うにはおこがましいですが、2つの学部を新設し、5つの大学病院群をまとめたことはその一つです。短期間で理事長が変わっていたらアイデアで終わっていたかもしれません。病院長や、医学部長時代から名市大がさらに発展するために必要なことを大学内で話してきましたからね。

——確かに大きな構想です。目的、意義を教えてください。

郡 一つは名市大の知名度、ブランド力を上げるためにも規模を大きくしたいと考えました。将来的には大学の再編、合併なども検討される時が来るかもしれません。その時のためにも優れた医療人材を確保し、学部を増やすなど

して全国の大学に負けない総合力を高めておくべきだと、進めました。名古屋市立の東部医療センター（千種区）と西部医療センター（北区）を2021年4月に名市大医学部附属病院とし、23年4月にみどり市民病院（緑区）とみらい光生病院（名東区）が同様に医学部附属になりました。病床数は国公立大学病院最大規模の約2,200床です。

——それぞれの医療機関に特徴を持たせるのか、一律に総合的診療体制を守っていくのかどちらを目指していますか。

郡 前者です。地域性や歴史、規模を考慮しながら各病院の機能分化を図っていきたいと、大学内で真剣に議論しているところです。例えば東部は第二種感染症指定医療機関に指定されていますし、西部では陽子線治療が全国トップの治療数を誇っています。各病院が特色のある分野で全国トップレベルの医療内容を目指す機能分化が望ましいと考えています。市総合リハビリテーションセンター附属病院（瑞穂区）も25年に医学部附属となります。6つの大学病院が有機的に連携しながら、市民のための医療を充実、高度化させていきたいと思います。

——医学部は昨年、創立80周年を迎え、今年が大学の創基140年ですね。

郡 80年前は1943年で、戦時中に前身の名古屋市立女子高等医学専門学校ができました。資料のすべてが残っていないので、総合的